

「家がいいね」 第96号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 5. 5

緑のいのち、水を吸う

田んぼに水が入る時期と若葉が木々の梢へ昇ってゆく時期が重なっていました。桜は花芽を前年に準備し、最終章としての開花で我々を喜ばせますが、桜守りの玄人は、新葉で今年の樹勢に気を遣うと聞きました。



暦は初夏。通り過ぎた嵐の後、空も風も樹も、いのちの水であふれるようです。自然は、地球が水の惑星だと教えています。

傘もささずに、平気で歩く子が

多いのが不思議に思えます。傘を持っていても濡れて行きます。私が子供の頃、困った経験があるので、つい心配になります。そんな経験には、ならないのかと思います。危険の感覚は育つのでしょうか。安全と危険を隔てる距離は明確に区分されている訳ではありません。難を逃れるのには、偶然もありますが、本能抜きではありません。

使い捨ては、モノだけでは なくなつた？

原発の稼働が全て止まった今、考えてみる必要があります。個人的には、子や孫に尻拭いさせる危険なモノを、贈り伝えるわけにはいかない。これが「**持続可能な社会**」の考え方の第一歩です。

今まで私達の生活意識は、「景気が良くなれば幸せになる」が合言葉でした。多様な商品が安価にあふれ「**使い捨ての社会**」でした。本当に使い捨てが必要なのは、感染対策の注射器ぐらいいのに。

使い捨ては、人と人との関係（特に雇用）にも適用され、安さで取替えの利く部品のようになり、扱いになりました。原発事故に限らず、交通事故、労働災害、自殺の頻発にも影を落とっています。使い捨ての究極は、生活や命にまで至っています。

原発を再稼働したいのなら、子々孫々まで伝えるべきと説得しなさい。しかし命はモノではない。持続可能な社会への転機は、今しかありません。

みえ生と死を考える市民の会 勉強会

5月19日（土） 13時半～15時

津市 三重県総合文化センター

第一リハーサル室 会員外も可

佐治順子（のぶこ）先生（鈴鹿短大教授）

「生きる喜びを共有する音楽療法」

～緩和ケアにおける心の交流～

クリニックは、5月19日は外来休診です

みえ生と死を考える市民の会 講演会

7月8日（日） 13時～15時

津市 三重県総合文化センター

中ホール 会員外も可

佐治晴夫先生（鈴鹿短大学長）

「いのちという名の万華鏡」

～人間の不思議を考える～

大きな災害を経験すると、私たちの存在の根底をゆさぶられるように思います。でも命が終わっても、いのちが続くと思えるのは、なぜでしょうか。私たちは宇宙のひとつかけらとして繋がっています。そんな不思議のひとつとつを宇宙物理学者「佐治博士」にお聴きします。

縁（えにし）の家では

ゆっくりと話し込む時が流れる

「つどい場」が機能しています。

お気軽にお使いください。

今のご利用を紹介します。

がん患者と家族のサロン

（毎月 第3木曜 午後）

「終りよければ」いせの会（第2水曜 夜）

「心来」二こころの病いせ当事者会（第1・3水曜午後）

新高地区ふれあい昼食会（ほぼ毎月 木曜の昼時）

「たんぽぽクラブ」認知症しゃべり場

（奇数月 第1火曜 午後）

二こころの病の家族会（毎月 第4日曜 午後）



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp

ホームページ <http://isezaitaku.com>

